

平成30年度
第1回 香美市振興計画・総合戦略審議会議事録（概要）

日時：平成31年3月13日 10:00～11:30

場所：香美市役所3階会議室

出席者：振興計画・総合戦略審議会委員 15名

定住推進課長、教育振興課長、商工観光班長、健康介護支援課健康づくり班長、農林課2名、
企画財政課 3名

欠席者：7名

会長：原 心一 委員

・開 会

会長あいさつ

【議題】

1. 平成30年度香美市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

・事務局より「平成30年度香美市まち・ひと・しごと創生総合戦略PDCAサイクル進捗管理シート」を使用して進捗状況について説明を行い、その後、「人口動態の現状」の参考資料を用いて自然動態、社会動態、合計特殊出生率の推移について説明する。

・最終成果としてC評価ばかりの場合、香美市として国からの援助を受けられなかったりするのかな。
→そのようなことはない。今年度は企業誘致や天候の関係で観光人口などが目標に達せず、C評価になっている。

・今日の議論のポイントはどこにあるのかな。
→評価が正しいかどうかの検証や、あらゆる意見をいただき、次につなげて行きたいと考えている。

・KPIを立てる前提である、市が抱えている大きな課題を克服するための議論があまりされていないのではないかな。

・合計特殊出生率が仮に2.0に近づいたとしても、自然減による人口減少は進むため、合計特殊出生率と自然減の問題点について対策を議論して、最終目標として何を掲げるべきかということが大事なのでは。もっと本質論について議論すべき。

→いただいたご意見を次期総合戦略にできるだけ活かすように考えなければいけない。

→県の次期計画への動きを受けて、来年度香美市もこれまでの5年間の進捗状況や成果を見て次期計画を立てると思われるが、その際にどのような形で進むべきか、協議をしてはどうか。

・総合戦略の進捗状況と人口動態の現状がどのように関連しているかの説明がなく、ただ並列的に述べられている。

→総合戦略の進捗が人口動態の現状にどう影響が及んでいるかという分析まではまだできていない。

- ・辺鄙にあればあるほど地域的なハンディキャップを乗り越えるために、光通信技術を最大限に活用することが期待され、光通信によって事務所が繁華な所になくても展開ができる性格のものだが、今の通信環境で良いのかどうかを県でも通信事業者と交渉してもらい、もっと良い環境を作っていただきたい。

I T企業を誘致しようとしてもインフラが遅れており、他の国と比べて通信速度が遅いということがマスコミなどでもほとんど報道されていない。国防上も産業上も非常に重要な意味を持っているが、国も県もアピールが足りないので、その上積み強くしてもらいたい。

→県でもI T技術やA I の分野に新たに力を入れて取り組んでいくし、I T環境についても商工部での取り組みもある。今回の要請は県の担当課に伝える。

- ・空き家改修については、南海トラフ関連の地震を見据えた場合に、高知市内に出て拠点はふるさとに置きっぱなしという方がけっこういると思われ、元の空き家を改修してもらい、津波浸水などがあった場合に帰ってきて、第2拠点として整備してもらおうというPRをすることもっと促進されるのではないかと。法制度の検討をしてもらって「浸水エリアの人は対象にする」など、いろいろなことは考えていただきたい。

→市街化調整区域で耐震化が済んでいたら、浸水区域から移住される方は要件緩和で空き家に住むことができるようになってきている。また、香美市の市営住宅の空き室を利用してもらおうなど方法がいろいろあると思うので、今後検討していきたい。

- ・インバウンドに関しては早急にクレジットカードなどのキャッシュレスでの受け入れ体制が急務で、取りこぼしがかなりあり、せつかく来てくれているのにそこから広がらない。10月の消費税の増税に向けて国の動きもあるようで、商工会も早急に取り組んでいくが、香美市としてもその辺りの意識を持ってもらいたい。

- ・H31年度は体験型観光を進め、県下の中山間地域の活力で持続可能な経済を作るという目標があるようだが、残念ながら物部など香美市はそのキャンペーンに連動していない。物部のじじばば会の総会で、5、6年前に体験型プログラムの冊子を作った時から皆が年を取ってしまい、実際にこれを動かすのは難しいという話をしていたが、もっと切り口があるように思われ、森林を活用するなど官民一体になって勉強し、プロジェクトを立ち上げるなどの取り組みをしたら良いのでは。

- ・香美市をどんなまちにするのかという視点が住民に見えていないので、その辺りを条例などで徹底させ、どんなことをするのが次の計画では大事である。

- ・市職員の業務負担が大きくなっているのだから、香美市や香南・嶺北などの地域の人で県庁OBなどの優秀な人材を活用して計画を推進すべきである。

- ・香美市は工業政策が弱く、テクノパークに限ってはずっとC評価で、この状態のままで良いのか。工業が栄えると就労の場ができるだけでなく、自主財源にもつながるのでもっとしっかり取り組んでほしい。

→県の担当課と一緒に企業訪問などして情報提供もしているが、誘致には結びついていない。県の企業立地課にH30年度は県外企業3社と県内企業1社から問い合わせがあり、県内企業1社とは現地視察もして話し合いは行われているが、それ以降の進展は見受けられない。他市の状況も確認しながら県に頼るだけでなく、香美市としても努力をしていきたいので、ご協力をお願いしたい。

- ・食品団地など他の工業団地も必要ではないか。鍛冶屋の学校についても早急に必要だと思われる。
→集合団地のようなものも検討していきたい。
- ・高知工科大が開発・研究している技術がどういう役に立つのかという視点で広報していこうと動いているので、香美市の産業振興の方と情報交換して、必要な技術を持っている企業を誘致するのに活用できればと思うのでよろしくお願ひしたい。
- ・香美市は面積が広く山林も豊かで、日本の田舎の典型的な場所なので、自然の情報をうまく収集し、市民の生活の情報を融合させて、将来のこのような環境の人の生活のあり方をオープンデータ化して、日本国中や世界の人に使ってもらえるような体制をとれば正のスパイラルがうまく生み出せるのではないかと思う。情報提供できるので問い合わせただければ。

2. その他

- ・次期総合戦略の国からの指針が6月位に発表される予定で、それに合わせて県も動き、市も同調する形で策定する必要がある。現計画の総括も合わせて31年度の早めに行い、それを受けて本日いただいたご意見なども含めて次期総合戦略につなげていきたい。
- ・政策が全労働者中の何割に関わるものなのかが非常に不鮮明で、第1次、第2次に関わる人達がどれ位産業従事しているかを明確にせず、そこに重点を置いた政策を組むとなると、残った6割ほどのような対策をすれば良いのかという話になるので、年齢別の就業者割合と年々構成が変わっていく影響についてデータとして見せてほしい。

- ・閉 会
会長あいさつ